

Governor's
Special
Message for

EXPO

リーダーが語る
万博 未来創造

インタビュー：徐迪曼

福田富一
栃木県知事

関東平野の北部に位置し、さわやかな風、冷たくおいしい水、緑なす大地、すべてが自然にあふれ、住む人にも訪れる人にも「健康」と「やすらぎ」を与えることのできる栃木県。中国との交流にも積極的で、数多くの実績を積み上げている福田知事に、上海万博への期待と、日中交流の未来像をお話しいただいた。

活力と美しさに満ちた栃木を、
アジアに、そして世界に

栃木県といえば、日光東照宮や鬼怒川温泉、那須高原など、自然と親しめる場所がたくさんありますよね。私も何度も子どもたちと訪れて、四季折々で楽しませていただいております。栃木県の魅力や中国との繋がり、今後の取り組みなどをぜひお聞かせください。

栃木県は、特に上海、華東地域を中心とする中国との繋がりがあり、多くの栃木県関係企業が上海・華東地域に進出しております。また、栃木県からは、民間団体が今回の上海万博に参加しました。本県では、香港事務所を中心となって、中国に進出している栃木県関係企業の皆さんや栃木県出身の方など、本県にゆかりのある方を対象に栃木県企業人会を設立してい

ます。現在は、上海市・浙江省・江蘇省などを対象とした「華東地域」、香港・広東省などを対象とした「華南地域」、北京市、天津市、遼寧省などを対象とした「華北地域」の3カ所に栃木県企業人会があり、各企業人会では、会員間のネットワークづくりと情報交換のための懇談会や、講師を招いての勉強会などを開催しています。

本県から中国に進出している企業は、製造業、食品加工業など56社に及んでおり、その数も年々増加していることから、本県と中国のつながりもますます深まってきていると考えています。

栃木県と浙江省は友好関係を結んでいるとのことですが、具体的にどのような交流をされているのかお聞かせ

EXPO, Future & Creation

ください。

そうですね、本県と中国との間の一番のつながりは、上海市のとなり、中国のなかでも発展著しい浙江省との交流です。1986年、両県省に交流の窓口を開設した後、県民の代表団や「青年の船」の派遣、浙江省文化芸術団や技術研修員の受入れなどを通じて交流の輪を広げられました。こうした交流を積み重ねた結果、1989年6月に「友好交流に関する協定書」を締結、日中国交正常化20周年を記念して1993年10月、当時の萬学遠省長と渡辺文雄知事が「友好提携協定書」に調印し、正式な友好県省となりました。その後、1997年には、長年にわたる両県省の友好交流のシンボル及び交流の拠点として宿泊設備を伴う栃木浙江友好会館「杜鵑楼（とけんろう）」が杭州市西湖畔に建設され、本県からの訪問団など浙江省を訪れる人々に利用されています。

スなどについて現場の生の声を聞くことができ大変参考となりました。

また、浙江省では、習近平中国共産党浙江省委員会書記（当時・現在は国家副主席）と懇談する機会に恵まれました。懇談において両県省が長年築き上げてきた友好の絆をさらに発展させていくというお互いの意思を確認することができたことは、大変意義深いものであったと考えております。

習国家副主席におかれましては、先の北京オリンピックを大成功に導くなど数多くのご功績をあげられており、今後の日中関係の発展においても大きな役割を果たしていただけるものと大変期待いたしております。

浙江省は、非常に元気のある省で、中小企業の進出や業績においてはナンバーワンの省です。中小企業がどんどん進出してきていますから、お互いの良さを引き出しあうよりよい関係が継続されて、経済的な交流も発展していくのでしょうか。

本県とそのような元気な省ですが、今後も引き続き、互いに一層発展していくよう、観光をはじめとする経済分野における交流を進めていきたいと考えています。

中国人観光客がこれから日本へ来たときに、栃木県を訪ねてもらい、満喫してほしいです。栃木県の観光の魅

力についてもお聞かせください。

栃木県の観光といえば、まず日光を思い浮かべる方が多いかと思えます。日光ほど魅力にあふれ、いろいろな楽しみ方ができる観光地は全国でもなかなかないのでないでしょうか。その玄関口となるのは、世界一長い並木道としてギネスブックにも登録されている「日光杉並木」です。総延長距離37キロメートルにも及ぶ「日光杉並木」は、「杉の並木守」（すぎのなみきもり）と呼ばれるボランティアなどによって、この貴重な並木道を後世に残す努力が行われています。そして日光観光の中心となるのが、世界遺産に指定された日光東照宮など「二社一寺」に代表される歴史・文化です。東照宮だけでも、陽明門や眠り猫、三猿など見所が多く、一日中見ている飽

きることがありません。

いろは坂を登った奥日光も中禅寺湖や華厳の滝など多くのおすすすめスポットがあります。中禅寺湖東岸にあるイタリア大使館別荘は、現在、記念公園として一般に公開されており、かつて、国際避暑地としてにぎわいを見せていたころの趣を感じることができます。また、すぐ北側の旧英国大使館別荘も、今後、一般公開に向けた整備を行っていく予定です。

このほか少し足を伸ばすと、ラムサール条約湿地に登録された戦場ヶ原や小田代原などの湿地、竜頭の滝、湯滝など豊かな自然もおすすすめです。

日光の歴史、自然を満喫した後は、名湯の鬼怒川・川治温泉、秘湯の湯西川・川俣・奥鬼怒温泉などで旅の疲れ



華厳の滝



益子陶器市



奥鬼怒の加仁湯（かにゆ）温泉



2005年習近平浙江省書記（当時）と

花が満開のときに来てくださいとお誘いされているので、観光地としての交流を拡大していきたいですね。

都心にも近いところなのに、世界遺産もあり、湖や滝があり自然に親しめて、温泉にも入れるなんて、本当に見所満載ですね。

そうですね。栃木県の観光地では那須岳の麓に広がる那須高原も首都圏から気軽に訪れることができる人気のエリアです。皇室の御用邸があることから「ロイヤルリゾート」とも呼ばれています。この地域には那須湯本温泉を始め、由緒ある温泉が数多くあり、近年では、若い女性に人気のあるカフェ、レストラン、パン屋などのお店、広大な動物園や牧場等のレジャー施設、アウトレットショップなどもあ

を癒していただけます。鬼怒川温泉付近には、現在建設中の東京スカイツリーの全貌が完成に先立って見られるテーマパークなどもあり、ご家族そろってお楽しみいただけます。

浙江省杭州市西湖の蓮の花も栃木県との交流で広まったと聞いております。蓮の

りさまざまな楽しみ方ができるのが那須の魅力となっています。

このほか県内には、日本最古の総合大学といわれる「史跡足利学校」、焼きものの里益子、日本最大の野外劇場、国の重要無形民俗文化財にも指定されている烏山の「山あげ祭」、世界的に有名なインディカレースが行われる「ツインリンクもてぎ」などの名所・見所が数多くあります。

また、食べ物が美味しいのも栃木県の自慢です。宇都宮餃子、佐野ラーメンは今や全国区ですが、豊富な水を生かしたそばや地酒は県内各地にあり、足利市や栃木市のじゃがいもの入ったやきそば、佐野市のいもフライ、塩原温泉のスープ入り焼きそばなどのB級グルメもそろっており、それぞれお好みに応じた栃木の「食」を味わっていただけます。

さらに県では、観光地を巡る疑似体験型のホームページ「とちぎあちこち」体験ツアー」を開設しました。ドライブをしながら、日光例幣使街道（足利市〜日光市市街地）などの県内観光地を巡る疑似体験ができ、日本語、中国語のほか、英語、フランス語、韓国語にも対応しています。今後、合計10の街道について自宅に居ながらにしてドライブが楽しめる予定です。

また、食べ物が美味しいのも栃木県の自慢です。宇都宮餃子、佐野ラーメンは今や全国区ですが、豊富な水を生かしたそばや地酒は県内各地にあり、足利市や栃木市のじゃがいもの入ったやきそば、佐野市のいもフライ、塩原温泉のスープ入り焼きそばなどのB級グルメもそろっており、それぞれお好みに応じた栃木の「食」を味わっていただけます。

それはぜひ見てみてくださいね。栃木県産の河豚が食べられるとは面白いですね。

栃木県は、関東一の面積を有し、広大な農地や良質で豊かな水に恵まれていることから、農業や畜産業が盛んで、首都圏の「食」を支える生産基地となっています。特にいちごの収穫量は41年連続日本で、香港をはじめとした海外にも輸出しているほか、生乳

日本では「B級グルメ」と称して食べ物にまつわるイベントや情報があふれています。栃木県も餃子やラーメンをはじめ、皆が大好きな食べ物がたくさんありますね。私もよくいただいておりますし、中国から友人や知人が来た時など、高級な日本料理というよりは、日本のラーメン屋さんへ連れて行くと皆とても美味しいと喜びます。また、中国語などの案内やメニューがあると、安心して訪れることができます。外国語の対応があるのと本当に心強いです。

上海や北京には温泉がそれほどないでしょうから、ぜひ遊びにきていただきたいですね。また、那珂川町の馬頭温泉では河豚の養殖もしています。温泉は塩分を含んでおり、廃校になった小学校にいけすを作って養殖しています。この他珍しいイノシシ丼なども召し上がっていただけます。

EXPO, Future & Creation



収穫量41年連続日本一のいちご



じゃがいも入りやきそば

産出額は北海道に次いで全国第2位を誇っています。

また、本県は、全国で4番目に第2次産業の割合が高い「ものづくり」県で、自動車・航空宇宙産業や医療機器産業などの分野を中心に大手優良企業や技術力の高い中小企業が集積しています。自動車産業では、日産、ホンダなどが世界中で走る車を、航空宇宙産業では、富士重工業をはじめとする企業が最新の航空機の主要な部品を、医療機器産業では、東芝メディカルシステムズ、ナカニシ、マニーなどの企業が独自の技術力により世界的にシェアの高い製品を製作しています。ほかにもJ・T、シャープ、日立アプライアンス、富士通、パナソニック、キャノンなどの日本を代表する企業が立地しています。

世界的にも知れ渡る日本の誇れる技術と企業ばかりですね。食にも産業にも強みがあるのは素晴らしいですね。

このような状況の中、本県では、これまで自動車、航空宇宙、医療機器、光、環境の5つの産業分野を指定し、重点的に振興を図ってきましたが、内外の環境に対応できる厚みのある産業構造を構築するため、これらに加え、比較的景気に左右されにくい内需型産業である食品産業とこれに関

連する産業の振興に取り組み、本県地域経済が持続的に成長、発展する「フードバレーとちぎ」を目指していくこととしました。

食品産業は農業や食品製造業、外食産業など生産から加工・流通・消費に至るまで、関連する産業が幅広く、食品関連産業の活性化は地域振興に大きく寄与するものと考えています。本県の豊かな農産物や良質で豊富な水などを活かした食品製造企業が、今にも増して立地・集積し、また、地元企業が、大学等との連携により、豊かな地域資源を活用した新商品開発や販路開拓などに積極的に取り組み、成長できるように各種施策を実施していく予定です。

最後に、7月に中国人への個人観光査証の発給要件が緩和され、ますます中国人観光客が増えてきていますが、これから訪れる観光客へのメッセージなどをお願いします。

本県では、これまでも、中国、香港、台湾、韓国からの旅行客拡大のため、旅行エージェンツ等を招請し、観光地の視察や日本側関係者との商談会・意見交換会などを県内観光地の関係者とともに行ってまいりました。また、鬼怒川・川治温泉などの観光地では、中国語、英語標記のホームページの充実を図るほか、主な旅館では中

国の銀聯カードが使用可能となるなど受入態勢も整いつつあります。さらに、医療機関が温泉旅館と提携し、人間ドックを受けた後、周辺観光や温泉で静養してもらう「医療観光」も始まっており、先日、中国浙江省からのお客様を受け入れました。

このほか、お隣の福島空港や茨城空港、来年春季に全線開通する北関東自動車道などを活用し、近県と協力した観光客の誘致にも積極的に取り組んでいますので、中国をはじめ多くの観光客の皆さんに栃木県を訪問いただき、四季折々の多彩な魅力を感じていただきたいと思います。

本日は中身の濃いお話をたくさんお伺いできました。栃木県は観光地でも有名であるだけでなく、食と産業にも非常に強く、着実な発展を続けているのが栃木県なのだと思います。非常に勉強になりました。ぜひ私もまた友人を連れて訪問したいと思います。本日はどうもありがとうございました。



伊藤祐一郎

鹿児島県知事

西郷隆盛が好んだ「敬天愛人」という言葉をモットーとし、オープンな県政運営を行うとともに、大胆改革を続行している伊藤知事。持続可能な行財政構造の構築を図り、また、地方の自主・自立につながるような地方分権を推進するとともに、市町村とも連携しながら、国に対し、地域の実態に根ざした主張や提言を積極的に行っている。伊藤知事に、今回はお話をうかがった。



はじめまして。鹿児島県と上海は非常に近いので、他の地域ではなかなか出来ないような交流ができると思っております。お会いできるのを楽しみにしていました。本日は鹿児島県の魅力をたくさんお聞かせください。まず最初に、鹿児島県とはどのようなところなのか、ご紹介をお願いいたします。

上海万博が万博史上最多の入場者数を達成されたそうですね。ご成功、おめでとうございます。今後も経済都市としてさらに発展されていくものと思っております。

では、鹿児島県についてご紹介いたします。鹿児島県は、南北600kmに及ぶ広大な県土を有しています。600kmというと東京から岡山近くまでの距離ぐらいはあるかと思えます。鹿児島は、中国に近いんですね。鹿児島から上海までは約860kmの距離です。鹿児島から東京までの距離は960kmですから、実は、鹿児島から東京に行くよりも、上海に行く方が早いのです。お近くですし、もっとたくさん交流をしていきたいで

すね。そして2010年3月には九州新幹線が全線開業し、北の青森と南の鹿児島までが新幹線という1本のレールでつながることになります。「新幹線と航空機」という各都市間の移動手段が整うと、人・モノ・情報の流れが一気に変わるだろうと期待しているところです。

そうですね、インフラが整うと都市化、情報化が急速に加速しますね。新幹線で、青森県から鹿児島県が繋がれば、旅の面白さも広がりますね。新幹線で日本を縦断できる日を楽しんでいます。そのように、情報化がさらに進む鹿児島は、大変歴史のある県だとお聞きしており、近代日本の黎明期を築いた人物を輩出しているそうですね。

現在、大河ドラマ「龍馬伝」が人気を博していますが、近代日本を切り開いた幕末という激動の時代を走り抜けた主人公と、薩摩藩との関わりが大きなキーワードとして描かれています。先ほどおっしゃったように、この時代に共に活躍し、近代日本の黎明期を築き上げた明治維新の原動力となった西郷隆盛や大久保利通といった多くの偉人を鹿児島県は数多く輩出し、近代日本はまさに鹿児島県がその幕開けを行い、現在の日本の礎を作

EXPO, Future & Creation



鹿児島市と桜島 空撮



霧島連山 (霧島市)



さつま料理と焼酎



黒豚しゃぶしゃぶ

りあげたといえると思います。

また、名君と言われた薩摩藩第28代藩主の島津斉彬は、日本初の工場地帯（集成館）を作り、製鉄・造船・紡績をはじめ、食品の製造やガス灯の実験など社会インフラに関するものまで幅広い分野で工業化を進め、その後の日本の近代化に大きく貢献しました。このことが評価され、現在、ユネスコの世界遺産の暫定リストに記載されています。

なるほど、私も先日世界遺産に認定されている浙江省の廬山に行っていました。世界遺産に認定される文化遺産、自然遺産ですが、ハードルが年々高くなっているようにお見受けしました。リストに記載しているだけでも

名誉のあることだと思えます。鹿児島県は日本の中でも自然豊かな県としても有名ですね。

鹿児島県のシンボルである活火山「桜島」など、鹿児島県は世界に誇れる自然環境を有しています。1934年に日本で最初に国立公園に指定された「霧島」や、1993年に日本で初めて世界自然遺産に登録された「屋久島」など、現在でも多くの観光客を魅了しています。現在、これに加え、希少野生動物が生息し、亜熱帯の森やサングが広がる奄美群島の世界自然遺産登録に向けた取組も進めております。

そのような自然環境の素晴らしい鹿児島県は、美味しいものがたくさん

ある県ですね。地元の方が食べたら違うと言われるところもあるかもしれませんが、東京にも鹿児島県の郷土料理のお店や食材を使っているお店がたくさんあります。鹿児島県の〇〇というように、鹿児島という名称自体がブランド化されているように感じます。鹿児島の焼酎が無い居酒屋さんは見たことがないです。

鹿児島県は、食の王国と評されるほど、魅力にあふれた食べものに恵まれた県です。例えば、豚産出額や肉用牛産出額、鶏産出額、さつまいも収穫量、ぶり類養殖生産量、うなぎ養殖生産量、乙類焼酎製成数量などは、全国一位を誇っております。農業生産額は年間4千億円強で、これは全国第4

位です。この他にも、かごしま黒牛や黒豚、かるかん、さつまあげといった全国的に高い評価を受け、有名な食べ物が多いことも本県の大きな特徴です。また、鹿児島を語る上で焼酎の話題は欠かせません。焼酎は、いろいろな料理に合う健康的な蒸留酒として、日本全国で大人気です。WTOの知的所有権を定めるトリプス協定に基づき、江戸時代の鹿児島の呼称である「薩摩」という地理的表示が認められたことを受けて、現在は「薩摩焼酎」の世界ブランド化に向けた活動を進めております。

鹿児島県はたくさんの方々の魅力を持つ県だということが分かりました。他にも何かありますか？



白谷雲水峽（屋久島町）しらたにうんすいきょう



シラス基盤 鹿児島市電車



霧島の露天風呂（霧島市）

私は鹿児島島の魅力を紹介する時に、7つの「S」をキーワードとしています。

7つの「S」ですか？

はい、先ほど申し上げた「桜島」や「西郷さん」、「温泉（スパ）」、「焼酎」、「新幹線」の「S」に加えて、「スローフード」と「スローライフ」の「S」があります。特に現代社会にあっては、「スローライフ」はゆったりとした時間をもって、ゆったりと過ごす空間をどこで見つけるかという日本民族の共通の課題であると考えています。鹿児島には、人々を癒す静かな場所や美しい自然、おいしい食べものなどが豊富にあり、現在、こうした癒しを求めて、多くの方々が本県を訪れています。また、「食」は、21世紀における最大のキーワードのひとつだと考えています。農業については、鹿児島県の多様な農産物とこれまでの技術やノウハウを生かした、さらに戦略性の高い農業によって、今後は中国をはじめとするアジア市場をターゲットに、安心安全で高品質な農産物を輸出するプロジェクトが、10年後ぐらいには実現できるのではないかと考えています。

今回の上海万博では「環境」が大きなテーマのひとつとなっていました。が、「環境」に関してはどのようなス

タンスで施策に取り組みられていますか？

鹿児島県はまさに「環境」をキーワードに、環境に負荷をかけず、豊かな経済を維持する地域づくりに取り組んでおり、環境と経済が好循環する様々な施策を推進しています。

では、鹿児島県は何か特別な環境技術をお持ちなのでしょうか？

当県が誇る環境技術に、活火山「桜島」から噴出されたシラスを使った新しい技術があります。シラスとは、県本土面積の約6割を覆う地盤のことで、火山噴火のときの火砕流や、空中に舞いあがった軽石や火山灰などが堆積したもので、どちらかということこれまで厄介者扱いされてきました。当県では産学官が一体となり、このシラスを用いた製品の利用技術の開発に努め、現在では有益な資源として活用しています。

特に、最近、大きな注目を集めているのが、このシラスを使用した環境製品の「シラス緑化基盤」というものです。軽量で透水性・保水性・断熱性に富むことから、屋上や壁面の緑化に最適で、様々な場面で都市緑化の一助を担っています。

例えば、鹿児島市の中心部を走る市電の軌道敷には、このシラス緑化基盤が採用され、ヒートアイランド現象

の緩和、騒音低下に貢献しているだけでなく、緑のじゅうたんが都市の景観向上にも役立つなど、日本国内で高い評価を受けています。この他にも、シラスを約1000℃で瞬間加熱して作られるシラスバルーンと言われる素材があり、無害・不燃・断熱性等の優れた特性を持ち、資材の軽量化や断熱効果が実現できることから、建築素材の一部として使用され、幅広く使われています。

上海万博をきっかけにインフラ整備が進む上海にとっても、大いに役立つ新素材であると思います。ぜひ注目していただきたいと思っています。

さらに、これらのシラス製品は自然素材であるため、再資源化が容易で、クラッシュして再加工後、再製品化することができるといふ、まさにゼロエミッション・ゼロ廃棄物の環境技術であると考えています。

この「シラス技術」は当県が誇る先進的かつ「グリーン」な取り組みであり、地球上に普遍的に存在する火山噴出物利用のビジネスモデルとして、世界に通用する技術だと確信しているところです。

なるほど。鹿児島県はすばらしい環境技術をお持ちですね。他にも何か環境に関して取り組んでおられることがありますか？

EXPO, Future & Creation



知事の信条「敬天愛人」



九州新幹線



鹿児島県上海事務所オープニングレセプション

当県が誇る世界自然遺産である、屋久島での取組みをご紹介したいと思います。屋久島は、樹齢7千年を超える縄文杉を有し、わが国で初めて世界自然遺産に登録され、国内でもっとも美しく人気のある島で、日本では京都に並んで人気のある観光地です。屋久島はスーパーネイチャー（超自然）と言われる類いまれな自然を維持するために急峻な山と豊富な水を活用して、必要電力量の大部分を水力発電によるクリーンエネルギーによって賄っています。このような地域は他にはなく、これからの低炭素社会づくりに向けてモデルとなりうるということ、大きな注目を集めています。この世界自然遺産の島・屋久島にふさわしい島内交通手段として、排気ガスを出さない電気自動車の導入を進めています。

では最後に、知事は上海に何度か訪れていただいているとの事で、大変嬉しく思っております。中国・上海との交流促進に向けた鹿児島県の取り組みについてどのようなことをされているのか、お聞かせいただけますか。

そうですね、私は上海にはこれまで何度も行っており、そのたびに発展する街の様子に驚き、上海の持つあらゆる意味においての潜在力の高さに

注目しています。このようなこともあり、2010年7月1日には鹿児島県特産品協会上海駐在事務所を御地に開設しました。万博を機に、上海及び中国が、今後どのように変わっていくのか非常に楽しみでありますし、注目していきたいと考えています。

また、鹿児島県では「上海マーケティングプロデューサー」を設置しているとお聞きしましたが中国との交流の促進に向けた具体的な取組みを教えてください。

成長著しい中国は、食の生産県である本県にとつて、有望な輸出先となることを期待しており、中国最大の経済都市・上海をターゲットにした今後10年間の経済活動の指針として、2009年3月に「上海マーケット戦略ロードマップ」を策定しました。これを担当する職として、2009年の7月に「上海マーケティングプロデューサー」を設置し、その活動拠点として県特産品協会上海駐在事務所を上海に設置しました。

「上海マーケティングプロデューサー」の今後のご活躍から目が離せませんね。私も是非、ご挨拶にお伺いさせていただきます。今後の鹿児島県と中国との交流において期待されていることをお聞かせください。

本県の安心・安全で高品質な食品を、より多くの中国の皆さんに召し上がっていただくことができるよう、上海事務所を拠点に積極的に様々なことに取り組んでいきたいと考えています。

2011年3月に新幹線が開業すれば、九州の北部・福岡と鹿児島がわずか80分で結ばれるようになるため、上海から九州を周遊する観光ツアーも造成しやすくなると思います。多くの中国の皆さんに本県を訪れていただきたいと思っております。一方で、上海万博をきっかけに、上海のファンとなり、上海を訪れる県民も多いため、地理的に東京よりも近いところにこのような大都会があり、日々発展する姿を目の当たりにして、そのエネルギーや魅力を体感することでしょう。

これを機に本県からも多くの県民が中国・上海を訪れ、双方の交流が図られることをさらに期待したいと思っております。

本日は、鹿児島県の様々な魅力や取り組みについて詳しくお伺いすることができました。鹿児島県と中国との距離の近さを最大限に活かし、経済・文化の交流が、今後一層深まるのだろうと思えました。大変有意義なお時間を過ごさせていただきました、ありがとうございました。

高橋はるみ

北海道知事



豊かな自然環境に恵まれ、食や観光などの優れた資源の宝庫・北海道。この限らない潜在力を活かし、経済構造改革の推進、地域主権の確立などに取り組み、未来に向けて夢のある北海道づくりを進めている高橋知事に、日中交流の現在・未来についてのお話をうかがった。

無限大の底力で 日中交流に貢献

北海道は、2008年に中国で公開され爆発的大ヒットとなった「非誠勿擾」の映画のロケ地であり、大勢の中国人がいまだに訪れているそうですね。本日は上海万博に出展された様子や北海道の魅力をたくさん伺いさせていただけます。まずは、準備も大変だったと思われませんが、そのかいあって入場制限までされたという、内容盛りだくさんの万博出展についてお聞かせください。

私は、上海万博「北海道の日」に合わせて8月30日から9月4日の間、中国を訪問いたしました。2000名を超える道内からの参加者とともに、北海道の魅力ステージイベントや様々な展示によりアピールさせていただきました。この3日間で、3万人を超えるお客様が来場され、おかげさまで大盛況でした。また、万博のイベント

と並行して、上海市内のホテルで「北海道物産・観光フェア in 上海」や「北海道料理フェア」を開催したところです。こちらも相当な数の中国の方々に訪れていただきました。

「物産観光フェア」では、スイーツ・菓子類、水産加工品など約230品目の道産品の展示・販売をいたしました。また、道内各地の観光ポスターの掲示やパンフレットの配付のほか会場内のステージでは江差追分などの伝統芸能を披露しました。合計約3500人の入場者、400万円を超える売り上げがあり、大きな成果を得ることができました。

また、「北海道料理フェア」では、ホタテ貝、イクラ、ラーメンなど道産食材を用いたメニューを提供し、約750食の注文をいただくなど、多くの方々に本道の味を楽しんでいただき

EXPO, Future & Creation

ました。今後は、海外に向け北海道ブランドを発信するため作成した「輸出用シンボルマーク」の活用を図りながら、安全・安心で質の高い道産品をPRし、販路拡大に確実に結びつけていくつもりです。

万博でのイベントの内容の濃さにプログラムを見て驚きました。北海道出展の際は、長い行列ができていましたね。また、北海道のスーツはとにかく大人気なのです。中国に戻るときに、友人に頼まれるので、私はよく北海道のスーツを羽田空港でお土産に買って帰ります。

ありがとうございます。そして、今回の中国訪問では、航空各社も訪問しました。広州に本社がある中国南方航空では、「瀋陽〜札幌線」の運航継続と、広州と新千歳を結ぶ路線の開設について要請をしました。上海では、中国東方航空を訪問し、「上海〜札幌」便の拡充のほか、旭川と上海、旭川と北京便の拡充、さらに定期便化という要請もし、それぞれ前向きな回答をいただきました。また、中国東方航空においては、関連施設における北海道のPRについて協力要請をしたところ、快く引き受けいただき、大変感謝しております。

さらに、観光プロモーションとしては、私とは別動班として道観光振興

監をトップに、100名を超える道内の観光関係者の方々とともに、杭州市、上海市、蘇州市において、北海道観光セミナーや商談会などを開催しました。

あの出展の大成功の影には、北海道庁職員や関係者の皆様の並々ならぬ努力が感じられますし、知事も暑い最中、北海道のPRのために中国国内滞在中は休む間もなく随分と精力的に動かれましたね。

上海万博「北海道の日」の開催に併せて実施したこれらの一連の事業により、道内からは官民合わせて総勢400名を超える方々が上海入りをし、総力をあげて北海道観光の魅力のアピールしてきました。訪問したいずれにおいても北海道への強い関心と



「北海道の日」オープニングセレモニー鏡割り

あこがれが感じられ、大変うれしく思うとともに、今後の誘客に自信を感じました。中国からの来道者数は昨年度、約9万3千人であり、経済不況やインフルエンザ等の影響で、来道者数が落ち込んだ国が多い中、対前年比96%もの大幅な増加をみせており、この度の上海等で行った様々な活動を、一つのきっかけとして、上海をはじめとする中国に対し、さらなるアピールをしていきたいと思えます。

本年3月、新千歳空港国際線ターミナルビルが供用開始し、国際線が、ますます便利で快適な施設へと生まれ変わりました。これまでのターミナルビルに比べ利便性が格段に向上することはもちろん北海道ならではの雪冷熱エネルギーを活用するなど、環境



躍動感ある太鼓に会場は熱気に包まれました

にも配慮した施設ですので、海外からのお客様に快適にご利用いただけるものと確信しておりますし、北海道は、季節ごとに異なる魅力のもと、スキーやゴルフなどのアクティビティやおいしい食が楽しめるアジアのオールシーズンリゾートですから、多くの中国の方々には北海道を訪れていただきたいと思えます。

そうですね、冒頭でもお話ししましたが、北海道、と言えば、中国で大ヒットを記録した映画「非诚勿扰」で広く知られるようになりましたし、中国から北海道への便が毎日満席で、航空券の入手が困難になるという状況がしばらく続いていたと聞いて驚いておりました。これからも引き続き多くの中国人だけでなく多くの観光客が



真夏の上海に雪だるまが出現



一面に広がる花畑



羊蹄山を望むシバザクラ



雪まつりの大通公園

訪れると思います。

ありがたいことですね。ロケ地となった道東や知床などの景色はもちろんですが、北海道には他にも魅力のある地域がたくさんあります。北海道の魅力といえば、何と言っても、まず「豊かな自然環境」です。道内には、23の自然公園があり、雄大な山岳やそこに広がる原生林・高山植物、広大な湿原や湖沼などが北国らしい景観を形作っております。また、ラムサール条約登録湿地として「釧路湿原」や「ウトナイ湖」など6箇所
の美しい湖沼が登録されているほか、2005年には、流水が育む豊かな海域生態系などが評価され、「知床」が日本国内3番目の世界自然遺産として登録されました。さらに昨年、洞爺湖有珠山が世界ジオパークに認定されました。また、「花」も北海道の大きな見どころのひとつです。北海道の春の訪れは本州に比べると遅く、桜の見ごろは5月上旬頃です。その後、5月中旬から、すずらん、ミズバショウ、芝桜、ライラックと順に咲いていき、滝上町や大空町で見られる、一つの山が芝桜に埋め尽くされる光景は本当に美しいものです。7月上旬からはラベンダーが咲き始めて富良野・美瑛地域のラベンダー畑では、7月中旬

から下旬にかけて満開となり、美しい紫色と素敵な香りが楽しめます。7月下旬から8月にかけては、北竜町などで眩しいほどの一面のヒマワリ畑を見ることができ、花の季節が終わると、次は、山々が赤、黄色、オレンジなどいろいろな色に染まる秋の紅葉が楽しめます。冬は雪に覆われ、北海道は『真つ白な世界』になります。手にとるとサラサラと風に舞うパウダースノーは、中国の方にとってたまらない魅力だと思います。

おっしゃるとおりで、中国の雪と違って、北海道の雪は非常にサラサラして、きれいですから、北海道を訪れて、雪に触れた中国人は、想像以上の手触りに感動しています。

ご紹介した北海道の自然は、景観を楽しむだけではなく、夏はゴルフに乗馬やラフティング、冬はスキーやスノーボード、スノートレッキングなど、さまざまなアクティビティで私たちをはじめ、訪れた方々を楽しませてくれます。

私自身もスキーが大好きなので、子供たちや友人を連れて北海道にスキーをしに行きます。また、北海道を訪れた際は、食べることも最大の楽しみですね。

はい。旅の楽しみには旅先で出会う

「美味しい食」が欠かせません。

北海道は太平洋と日本海に囲まれており、豊かな大地と海からの恵みが豊富な食材の宝庫。「新鮮で安全・安心な食」を楽しんでいただけます。北海道は日本の食糧供給基地と言われるほど豊かな食材に恵まれ、中国の方に人気の海産物として、カニ・ホタテ・サケ・なまこなどがあり、豊かな大地から採れる農畜産物とともに美味しい料理を存分に味わっていただけます。また、選り抜かれた新鮮な酪農製品で作られるケーキやアイスクリームなどのスイーツも最高です。是非ともご賞味いただきたいですね。

北海道は食べ物の宝庫でもありますが、また格別なのは、寒い中で、大自然の中にある温泉に浸かれるという非日常的な時間が過ごせますよね。

北海道には、各地に様々な泉種の素晴らしい温泉があり、それらを巡るのも北海道での旅の楽しみの一つですね。美しい大自然に囲まれた露天風呂、特に雪降るなかで楽しむ温泉はとても贅沢な時間です。約1万年前に噴火してできたと言われ、硫黄の匂いが漂う「地獄谷」で知られる「登別温泉」や札幌の奥座敷として親しまれ、足湯も人気な「定山溪温泉」、部屋ごとに露天風呂を有するホテルもある

EXPO, Future & Creation

「湯の川温泉」、柱状節理の断崖がそびえ立つ神秘的な峡谷の「層雲峡温泉」、湖に面したホテルの露天風呂からマリモの生息地である阿寒湖を一望できる「阿寒湖温泉」、全ての温泉施設が源泉かけ流しで、JR駅内に足湯がある「川湯温泉」等、とても全ては紹介できませんが、まだまだたくさん温泉があるので、それぞれの温泉に入り比べて、楽しんでいただければと思います。

北海道は一年中いつでも楽しめますね。

さまざまな魅力が四季を通じて楽しめる北海道は、少なくともアジアナンバー1の「オールシーズンリゾート」であると自信を持っています。多くの方に四季を通じて来ていただき、その素晴らしさを実感していただきたいと思っています。ゆったりとあるいはアクティブにそれぞれの方に合わせたリゾート気分を北海道では是非味わってください。

最後に、北海道の国際交流についてお聞かせください。

北海道の国際交流は、昭和46年に北方圏構想という形で始まりました。今でこそ、衣食住の面で冬の生活も快適になってきていますが、当時は積雪寒冷をいかに克服し、冬の生活を豊かなものとしていくかが課題でした。

地球を北から眺めると、本道は地理的に北方圏の要衝に位置しており、ハンディキャップになりかねない寒さや雪の問題を共通の課題として北方圏地域との交流を進め、これら地域との交流は、生活、文化、産業などの面で本道の発展に大きく寄与してきました。本道が育んできた北方圏地域との交流は、今年で、昭和55年のカナダのアルバータ州との姉妹提携調印から30周年、アメリカのマサチューセッツ州とは同様に20周年を迎えることとなり、ロシアのサハリン州との友好提携も10年を超え、現在も官民の活発な交流が続いております。

北方の国々特有の、寒さや雪の問題を逆に魅力に変え、共通の課題を克服していくことは、多大なる努力が必要なのだと思いますが、より一層友好を深めることにも繋がりますよね。

そうですね。一方、近年では、東アジア地域のめざましい経済成長などにより、本道と中国や韓国など、東アジアの近隣諸国との関係が極めて重要だと思っております。中国との関係では、黒竜江省と昭和61年に友好提携に調印し、来年で25周年を迎えます。また黒竜江省に吉林省、遼寧省を加えた東北三省とは平成元年に経済交流に関する覚書を締結しております。

今年はいままで交流が続けてきた韓国の釜山広域市や慶尚南道に加え、ソウル特別市とも新たに友好交流協定を締結するなど、東アジア地域との一層の交流拡大に取り組んでいるところです。

北海道では、今年初めて、本道とこれら姉妹友好関係にある地域の代表者の皆さんに札幌にお集まりいただき、地域相互の交流の拡大を図ることにより、それぞれが点と点の関係から面の関係へと、重層的な交流関係の発展に結びつけることを目的として、友好提携地域代表者会議を開催いたしました。会議には、黒竜江省からもご参加をいただき、各地域の共通の課題である『環境との調和と持続可能な発展』をテーマに議論を行いました。道としても引き続き、自治体間交流の枠組みを最大限に活用し、お互いの地域の発展につながる交流の拡大に取り組んで行きたいと考えております。

本日は、北海道の魅力と、積極的に活発な国際交流活動をお聞かせいただき、道庁、道民の皆様の郷土愛をとても感じました。オールシーズン楽しめる北海道に毎回季節を変えて訪れてみようと思います。本日はどうもありがとうございました。



パウダースノーを滑降するスキーヤー



尻別川でのラフティング



雪の中の露天風呂